

# 第3章 主要指標の見通し

## 1 人口

新市の人口は減少を続けており、コーホート法により将来の人口を推計すると、平成22年に約84,100人、平成27年に約77,400人に減少する見通しです。特に、65歳以上人口の増加が著しく、平成27年には高齢化率が約34%になると推計されます。

新市では、都市的な魅力を高め、若者を中心とした定住人口の確保や交流人口の増加を図りながら、人口減少に歯止めをかける必要があります。

## 2 世帯数

新市の世帯数は、平成12年には34,975世帯で、人口が減少傾向にあり、今後さらに核家族化が進むことが予想されます。

主要指標の見通し

単位：人、%、世帯

区 分		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
総人口		100,776	95,641	90,240	84,106	77,357
年齢別人口	年少人口(0～14歳)	16,495	13,825	12,291	10,950	9,607
	割合	16.4	14.5	13.6	13.0	12.4
	生産年齢人口(15～64歳)	62,553	57,576	52,911	48,231	41,508
	割合	62.1	60.2	58.6	57.4	53.7
	老年人口(65歳以上)	21,728	24,240	25,038	24,925	26,242
	割合	21.6	25.3	27.8	29.6	33.9
世帯数		35,212	34,975	34,299	33,484	32,299
1世帯あたりの人員		2.86	2.73	2.63	2.51	2.40

\*平成7年と平成12年については、実績値(国勢調査)。

\*平成17からは推計値。人口の将来見通しについては、センサス変化率を用いたコーホート法で、1世帯あたりの人員は過去25年間のトレンド法により推計。

## 第4章 新市建設の基本方針

### 1 新市の基本理念

新市は、風光明媚な多島海「宇和海」と、複雑な湾を屏風のように大切に囲む急峻な山々、そして、無数の清流が流れる盆地から成っています。この美しくも厳しい自然環境と相對した先人たちは、試行錯誤のなかから、常に新たな産業や洗練された文化を築いてきました。このような、地域特性を活かして築くまちづくりを新市においても、住民一人ひとりが力をあわせて大切に受け継ぎ、発展させていきます。

新市の基本理念

人と交わり、緑と話し、海と語らう  
きらめき空間都市

本計画では、新市の基本理念を『人と交わり、緑と話し、海と語らう きらめき空間都市』と定めます。この理念は、地域の豊かな自然や個性的な文化を最大限に活かしながら、歴史のなかで培われた先進性と創造力でまちづくりを一層推し進め、四国西南地域をけん引する中核都市となることをめざしています。

「人と交わり」は、住民一人ひとりの活動が、新市のまちづくりの基本にあることを示しています。「緑と話し、海と語らう」は、“父なる大地と話す”中から自然に感謝して暮らす営みを学び、心豊かな子どもが育ち、“母なる海との語り”から思いやりが芽生え、支えあう福祉が生まれるという考え方を掲げています。「きらめき空間」は、自然あふれる生活空間、個性的な文化が融合して雅を演出する空間、一人ひとりの笑顔がきらめく空間など、さまざまな空間が形成された都市像を表現しています。

住民一人ひとりが、まちづくりの担い手となり、人や自然との新たな出会いを大切にしながら、きらめきあふれる新市を、協働で創っていきます。

## 2 新市建設の基本目標

基本理念の実現にむけて、以下の5つの基本目標をめざし、まちづくりを進めます。

### <基本目標1>

#### 恵まれた自然環境を保全し、快適に暮らせるまち

恵まれた自然は地域の誇りです。都市化や地域開発が進み、さまざまな要因で地球環境が悪化するなか、住民に潤いを与える自然環境を、後世に受け継いでいくことは重要な課題です。

新市では、自然と共生してきた生活文化を継承しつつ、リサイクルなどの推進による環境にやさしい循環型社会の形成をめざします。さらに恵まれた自然環境を保全し、そのゆとりとうるおいのある空間を活かしながら、公園・緑地、住宅・宅地の整備、水道の整備・充実、道路・交通網の整備、情報通信網の整備・充実など、住民が快適に生活できるまちづくりを進めます。また、安全な暮らしを確保するため、消防・防災、交通安全、防犯等の体制の充実に努めます。

### <基本目標2>

#### 地域特性を活かした産業が発展するまち

世界的な産業再編、不況の長期化などにより、国内産業は厳しい状況が続いています。本地域では、産業面における先見性と実践力で時代をリードした偉人を多く輩出し、全国に通ずる産業を培ってきました。進取の気性、豊かな農業・漁業資源など、本地域の特性を活かしながら、常に新たな視点に立った産業振興を図るために、研究機関を整備するとともに、基幹産業の充実や起業環境の整備を図ります。また、21世紀の多様で高度な消費者ニーズに応えられる、新たな地場産業の育成に努めます。

そのため、産・官・学の連携による高付加価値型の農林水産業、まちの顔となる個性的な商業、ベンチャー企業の支援などを行い、消費者ニーズに即応できる工業、

体験・滞在・反復型の観光の育成を図ります。さらに基幹産業である農林水産業を、情報関連産業などの新しい分野に結びつけるなど、第1次、第2次、第3次産業の総合的な連携を図った「6次産業」の育成・拡充を促進し、若者や女性、高齢者などすべての住民がはつらつと働く、活気に満ちたまちをめざします。

ベンチャー企業：新技術や高度な専門知識などを活かし、開発リスクを伴いながら、創造的な研究開発・新商品開発などの新事業に取り組み、成長しようとする中小企業。

6次産業：第1次産業、第2次産業、第3次産業を融合させた新たな産業のたとえ。1×2×3=6であることに由来している。

### <基本目標3>

#### すこやか、安心、思いやりのあるまち

少子・高齢化が進むなかで、21世紀を担う子どもたちが地域とともにすこやかに育つよう、子育ての社会的な支援が求められるとともに、生涯にわたって住民が健康で安心して暮らし、ノーマライゼーションの理念に基づき、積極的に社会参加できる環境づくりが求められています。

新市では、高齢者や障害者、児童などの福祉サービス部門に対して、充実した人的配置を図り、今まで以上に質の高いサービスを提供していきます。また、行政だけが取り組むのではなく、地域住民が相互扶助や社会的連帯の意識に基づき、ともに支えあい、助け合う福祉社会の構築をめざします。さらに、食品衛生対策や感染症予防に取り組むとともに、山間部・離島・半島など地理的条件に恵まれない地域における福祉・保健・医療サービスの充実と確保を積極的に推進します。

ノーマライゼーション：障害者や要介護高齢者など、ハンディキャップを持つ人が、持たない人と同じように生活することが普通の状態であるとする考え方。

< 基本目標 4 >

歴史・文化を尊重し、いきいきと市民が活躍するまち

生活水準の向上や余暇時間の増大など生活の多様化・個性化が進展するなかで、人生の各段階に応じた生涯学習に対する期待は、ますます高まっています。

こうした状況の下、子どもから高齢者まで全てのライフステージにおいて総合的・体系的に学習できるシステムを構築するとともに、公民館や図書館などの社会教育施設を十分に活用し、実り多い学習活動が展開できる生涯学習推進体制を確立します。

特に、就学前教育や学校教育の分野においては、地域の歴史・文化に誇りを持ちながら、広い視野に立って、これからの社会を担っていく子どもたちの育成に努めます。

これらの取り組みを通じ、子どもから高齢者まですべての市民が、新市の自然や歴史・文化、産業を活かしながら、生涯を通じた学習や豊かな交流のなかで、いきいきと活躍するまちをめざします。

< 基本目標 5 >

協働による住民主役の個性的なまち

新市の総合的な発展・整備を図るには、住民や団体がそれぞれの責任や役割を自覚し、個々の力の結集を図ることが必要です。このため、コミュニティ活動や男女共同参画を推進する活動など、まちづくりに関する自主的な活動の一層の活性化を図ります。そして、住民・民間団体の理解と協力を得ながら、行政とともに協働してまちづくりを進めていく体制の確立を図ります。

また、高度化・多様化する行政需要に対応するため、効果的・効率的な行財政運営をめざします。

### 3 計画推進にあたって

基本理念と5つの基本目標の実現にむけて、各分野の施策を総合的、効果的に推進していくために、以下の視点に留意していきます。

#### < 1 > 心の時代をリードするまちづくり

新市では、「モノ」重視から「心」の重視という時代の変化と要請に対応し、ゆとりある生活環境、品質や安全性にこだわった産業振興、心のふれあいを大切にした福祉、豊かな心を創る教育などを一体的に進めるまちづくりをめざします。

#### < 2 > 地域特性を活かしたまちづくり

新市では、恵まれた自然や地域のさまざまな資源を再評価し、新しい発想で一層の活用を図りながら、さらに新しい地域の「宝」を生み出します。その宝を起業化することで産業を活性化し、若者の雇用や定住などにつなげるまちづくりをめざします。

#### < 3 > ユニバーサルデザインのまちづくり

少子・高齢化時代にあって、高齢者対策や子育て支援等がまちづくりの重要な施策の一つになっています。新市では、「バリアフリー」の概念を一步進めて、「ユニバーサルデザイン」の考え方によるまちづくりを推進し、誰もが暮らしやすく、活動しやすいまちづくりをめざします。

ユニバーサルデザイン：年齢・性別・国籍・障害の有無等にかかわらず、誰もが、使いやすい、生活しやすい環境やデザイン。「障壁を除去する」といういわゆるバリアフリーをさらに進めた概念。